

# 第1学年東組 音楽科学習指導案

学習指導者 溝渕 佳子

1 題材 「音をつないで星空を表そう — 『きらきら星』『夕星のための踊り』 —」

2 題材について

(1) 育成したい「思考力」と学びに熱中する子どもの姿

## 【育成したい「思考力」】

『きらきら星』や『夕星のための踊り』の曲想や歌詞から想像した情景と結び付けながら、音色やリズムを創意工夫する力

音色やリズムの変化による曲想の変化に興味をもち、それらを伝え合いながら、自分たちの思いに合う音楽に構成していく過程を楽しんでいる。

## 【学びに熱中する子どもの姿】

本題材では、『きらきら星』や『夕星のための踊り』の曲想や歌詞から夜空に輝いている星空の情景を思い浮かべ、さまざまな音色に短いリズムをつけて、自分の思いに合うように工夫していく。例えば『夕星のための踊り』を聴いて、星が一つ光った後、だんだん増えてきていると感じた子どもは、一番星が光る様子を「きらっ」と表し「トライアングル」を「ターン」と1回鳴らし、星がだんだん増える様子を「びかびかびかびか」と表し「鉄琴」を「タタタタ…」と細かく鳴らす等である。

本題材において、子どもたちは、グループごとに思い浮かべた情景に合う星空の音楽をつくっていく中で、さまざまな音色やリズムに気付く機会が増え、より自分たちの思いに合う音楽をつくることができると考える。活動する中で、楽器にはそれぞれの音色に特徴があることや、一つの楽器からさまざまな音色が出せることに気づき、音色の面白さや豊かさを味わうだろう。そして、見つけた音色にリズムをつけ、自分たちの思いに合うようにつないで簡単な音楽に構成する楽しさに気付いていく。例えば夕方の方の一番星は、「僕は『きらっ』だよ。トライアングルを1回。」「私は『きらきら』。何回も鳴らしたい。」「私は『びかっ』。鉄琴の高い音が合うよ。」と、それぞれの音色やリズムの特徴を伝え合いながら、さまざまな音色やリズムを試していく。星の音（夕方の方の一番星、夜のたくさんの星、真夜中の流れ星、明け方の消えていく星）をつないで星空の音楽をつくる際には、「トライアングルで一番星ね。」「二番星はトーンチャイムだよ。」「ターンターンと繰り返すよ。」「だんだんタタタタ…。星がいっぱいになったよ。音色がきれいだね。」等と、自分たちの見つけた音色やリズムをつないで簡単な音楽をつくっていく楽しさを味わう。このような姿が、学びに熱中している姿である。

(2) 二つの場を位置づけた題材構成について

事前の質問紙調査では、35名全員が音楽が好きと回答しており、意欲的に活動に取り組んでいる。しかし、情景を思い浮かべて活動することに関して好きと回答したのは15名であり、従来題材で扱っている『きらきら星』を演奏し、簡単な旋律づくりをした後、子どもたちは「自分たちの思い浮かべた星を、どうやって表したらよいのだろう。」という問題をもつことが予想される。そこで、本題材ではさまざまな音色やリズムの変化も扱う。音色やリズムの変化による曲想の変化について考える場を題材に位置づけることで、即興表現が自分たちの思いに近づく楽しさを味わえるだろう。

また、子どもたちが設定する「星に合う音色を見つきたい。」という課題に対し、星の音として思い浮かべやすいトライアングルを使ってさまざまな音色やリズムを試し、「チーンとかチッチッとか、いろいろな音色があるよ。星に合う音色を見つけたよ。」と解決する場を位置づける。音色を見つけた子どもたちは、「違う楽器も試してみたい。」「どんなリズムで鳴らそうかな。」等と、さらに新たな問題を見いだすだろう。その課題を解決できるように、いろいろな音色やリズムを試す時間を設定する。そして、見つけた音色やリズムと鍵盤ハーモニカでの『きらきら星』の演奏や即興表現を組み合わせることで、星空の様子を表すという課題を解決する場を題材の最後に設定し、子どもの学習意欲を育てたい。

(3) 題材構成と学習意欲への働きかけ (総時数 6時間)

次	主な子どもの意識	学習意欲への働きかけ				
第一 次	<p>① 『きらきら星』を歌って、鍵盤ハーモニカで吹こう</p> <p>歌ったことがあるよ。ドドソソララソが難しいな。練習しよう。</p> <p>上手に吹けるようになったよ。もっと違う曲も吹いてみたいな。</p> <p>② 『星の音楽』をつくろう</p> <p>線をつなぐだけで曲ができたよ。楽しいな。友達の曲を聴きたいな。</p> <p>鉄琴も使って演奏したいな。鉄琴以外の楽器でも試してみたい。</p>	<p>①～⑥ 学習課題の達成度と振り返りを書く時間を設定し、自分の頑張りに気付いたり、課題を捉えたりできるようにする【自己評価カード：満内発的な強化】。</p> <p>③④ さまざまな楽器の音色を試す時間を設定することで、星の様子に近づけたいという思いを高める【場の設定：注探究心の喚起】。</p>				
第二 次	<p>③ 四つの星の様子を音で表そう</p> <p>鉄琴と鍵盤ハーモニカで演奏すると、星の様子に近づいたよ。</p> <p>星空の音楽をつくってみたいな。トライアングル等も使いたい。</p> <p>④ いろいろな楽器を使って、星空の音楽をつくろう。</p> <p>星に合う音を見つけよう</p> <p>トライアングルが合いそうだよ。鈴や鉄琴もいいね。</p> <p>どんなリズムで鳴らしたらいいかな。</p> <p>『夕星のための踊り』では、トライアングルと鉄琴が聴こえるよ。</p> <p>トライアングルで1回鳴らすと、鉄琴を細かく鳴らすと、きらきら一番星みたいだよ。輝いている感じがする。</p> <p>鈴やツリーチャイムも使って、いろいろな星の様子を表したい。</p> <p>トライアングルをター 鈴を細かくタタタと 鉄琴をさつとなぞつんと鳴らして一番星だ。振って空一面の星だ。て流れ星だ。</p> <p>星に合う音色やリズムが見つかったよ。</p> <p>星の音をつなげてみたいな。</p> <p>⑤ 本時(5/6)</p> <p>星の音をつなげて、星空の音楽をつくろう</p> <table border="1" data-bbox="223 1422 1061 1512"> <tr> <td>夕方、星が光り始める様子。</td> <td>夜、星がたくさん光る様子。</td> <td>真夜中、流れ星が輝く様子。</td> <td>明け方、星が消えていく様子。</td> </tr> </table> <p>トライアングルとトーンチャイムで交代して鳴らそう。鈴を繰り返して、鉄琴の音色を重ねてみよう。最初のトライアングルに合わせて、どんどん増やそう。だんだんと、トライアングルの音を減らしていくといいね。</p> <p>いろいろな音色やリズムで星空の様子が表せるね。楽しいな。</p> <p>自分たちの星空の音楽も、みんな2時間目につくった『星の音楽』に聴いてもらいたいな。とつないでみたいな。</p>	夕方、星が光り始める様子。	夜、星がたくさん光る様子。	真夜中、流れ星が輝く様子。	明け方、星が消えていく様子。	<p>④ 決まった音色やリズムしか思いつかない、初めから音色やリズムが思い浮かばないといった子どものために、『夕星のための踊り』を聴く時間を設定し、リズムや音色を変化させる際の手がかりとする【鑑賞：注知覚的喚起】。</p> <p>④ リズムを思いつかない子どものために、基本のリズムと子どもから出てきたリズムを掲示し、困ったときに選択できるようにしておく【リズムの提示：関目的指向性】。</p> <p>⑤ 自分の考えた音色やリズムを伝えられるように、鳴らす人と聴く人の約束を提示する【グループ活動：満公平感】。</p> <p>⑤ モデルとなる子どもの演奏を聴く時間を設定し、つながり方や音色、リズムの工夫のしかたに気付くようにする【モデル演奏：注動機との一致】。</p>
夕方、星が光り始める様子。	夜、星がたくさん光る様子。	真夜中、流れ星が輝く様子。	明け方、星が消えていく様子。			
第三 次	<p>⑥ 自分たちの星空の音楽を発表しよう</p> <p>いろんな音色やリズムをつなぐと、『きらきら星』がすてきな星空の音楽になったよ。楽しいな。</p> <p>天の川も表してみたいな。違う星空の音楽もつくりたい。</p>	<p>評価規準(第2次)</p> <p>星空の情景を思い浮かべて、音色やリズムを試しながら、星空に合う音楽をつくっている。</p>				

### 3 本時の学習指導

#### (1) 目標

星空の情景を思い浮かべて、音色やリズムをさまざまに試しながら、自分たちの思いに合う音楽をつくっている。

#### (2) 学習指導過程

学 習 活 動	子 ども の 意 識											
・学習前の子どもの課題意識 1 前時を振り返り、課題を設定する。	グループで星に合う音色とリズムを見つけたよ。 グループの人と一緒に、四つの星を表す音をつなげて星空の様子を演奏してみたいな。											
<b>星の音をつなげて、星空の音楽をつくろう</b>												
2 グループごとに、四つの星を表す音色やリズムをつないで演奏する。 <b>【グループ活動：満公平感】</b>	一番星から順につないで演奏するといいな。 夕方、一番星が光り始める様子だよ。 トライアングルをターンと鳴らそう。 友達とうまくつながらないな。どうすればいいのかな。 <table border="1" data-bbox="582 757 1417 1108"> <tr> <td>夜になって、星がたくさん光る様子だよ。</td> <td>鈴でリンリンと鳴らすよ。</td> <td>真夜中に、流れ星が流れて輝く様子だよ。</td> <td>明け方、星がだんだん消えていく様子だよ。</td> </tr> <tr> <td>鉄琴をシャララとなぞって流れる感じだよ。</td> <td>トーンチャイムをターンターンと鳴らそう。</td> <td>他のグループはどうやっているのかな。</td> <td></td> </tr> </table>				夜になって、星がたくさん光る様子だよ。	鈴でリンリンと鳴らすよ。	真夜中に、流れ星が流れて輝く様子だよ。	明け方、星がだんだん消えていく様子だよ。	鉄琴をシャララとなぞって流れる感じだよ。	トーンチャイムをターンターンと鳴らそう。	他のグループはどうやっているのかな。	
夜になって、星がたくさん光る様子だよ。	鈴でリンリンと鳴らすよ。	真夜中に、流れ星が流れて輝く様子だよ。	明け方、星がだんだん消えていく様子だよ。									
鉄琴をシャララとなぞって流れる感じだよ。	トーンチャイムをターンターンと鳴らそう。	他のグループはどうやっているのかな。										
3 モデル演奏を聴き、音色やリズム、音のつながりについて話し合い、試す。 <b>【モデル演奏：注動機との一致】</b>	一番星と他の星を、違う楽器の音色で交代に鳴らしているね。 トーンチャイムの音色もすてきだね。演奏に入れてみたいな。 トライアングルとトーンチャイムを交代に鳴らそう。 前より、星空の様子に近づいたね。 <b>四つの星がつながって星空の音楽ができたよ。</b> 他のグループの音楽も聴いてみたいな。 <table border="1" data-bbox="582 1160 1417 1512"> <tr> <td>夕方から夜になるとき、リズムがだんだん細くなっているよ。</td> <td>星が増えたり減ったりする様子を変えて表してみよう。</td> </tr> <tr> <td>増える様子をターン、タンタン、タタタタ…にしてみよう。</td> <td>減る様子をタンタン、タンと鳴らしてみよう。</td> </tr> </table>				夕方から夜になるとき、リズムがだんだん細くなっているよ。	星が増えたり減ったりする様子を変えて表してみよう。	増える様子をターン、タンタン、タタタタ…にしてみよう。	減る様子をタンタン、タンと鳴らしてみよう。				
夕方から夜になるとき、リズムがだんだん細くなっているよ。	星が増えたり減ったりする様子を変えて表してみよう。											
増える様子をターン、タンタン、タタタタ…にしてみよう。	減る様子をタンタン、タンと鳴らしてみよう。											
4 グループ発表をしたり発表を聴いたりしたことから、振り返りをして次時につなぐ。 <b>【自己評価カード：満内発的な強化】</b>	僕たちと同じ楽器のトライアングルと鉄琴を使っているね。音の出し方がちょっと違うよ。音色が変わると感じが変わるね。 私たちと違って、リズムを変えてつなげているね。星がだんだん増えたり減ったりしている感じがするよ。 <b>いろいろな音色やリズムで星空の様子が表せるね。楽しいな。</b> 僕たちもすてきな星空が表せたよ。演奏をみんなに聴いてもらいたいな。 今日つくった星空の音楽と、前につくった『星の音楽』をつないで演奏してみたいな。											

提 案 授 業 1 指 導 案

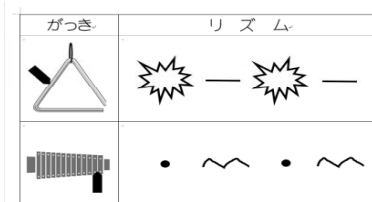
### (3) 本時の詳細

#### 前時までの子どもの意識 学習活動1

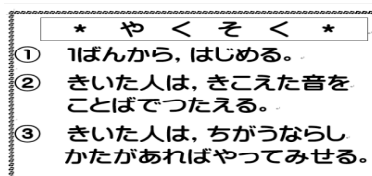
子どもたちは、四つの星（夕方が一番星、夜のたくさんの星、真夜中の流れ星、明け方の消えていく星）を思い浮かべ、その様子を、「きらーん」「しゅー、ぴかっ」のようにことばで表した。そして、そのことばに合う音色をトライアングル、トーンチャイム、鉄琴、鈴等を鳴らしながら探していった。その際、8～9人を一つのグループとし、その中で四つの星のどれかを選び、同じ星を選んだ友達と音色やリズムを確かめ合いながら音楽をつくっていった。前時は、自分たちが選んだ星の様子に合う音色とリズムを決めて練習し、「グループの人と一緒に、四つの星の様子を表す音をつないでみたいな。」といった問題を抱えており、その意識から、本時のような学習課題が設定される。

#### 学習活動2

初めに、自分たちが考えている音色とリズムを書いたワークシートを持って集まり、グループ内で四つの星を順に演奏していく。その際、自分の考えた音色やリズムを伝えるために、鳴らす人と聴く人の約束を提示する【グループ活動】。順に鳴らして音をつないだ後、子どもたちはそれぞれの音楽のつながりについて、「友達とうまくつながらないな。」「他のグループはどうやっているのかな。」等の問題を抱くだろう。そこで、解決の手がかりとなるように、つなぎ方を工夫している子どもを見つけておき、学習活動3で紹介できるようにする。



【星の様子を表すワークシート】



【グループ活動の約束】

#### 学習活動3

始め方や終わり方等、どのようにつなぐとよいかが見つからない子どもたちや、思い浮かべた様子にぴったり合う音色やリズムをさらに工夫したいと感じている子どもたちは、他のグループの演奏を聴きたいと感じるだろう。そこで、グループ活動の際に見つけておいた、つなぎ方を工夫している子どもの演奏を聴かせ【モデル演奏】、つなぎ方や音色、リズムについて全体で話し合う時間を設定する。リズムを変化させることでなめらかにつないだり、違う音色で交代に鳴らす等して様子を表したりすることのよさに気付いた子どもたちは、自分たちの演奏に生かそうとするだろう。また、自分たちとは違う音色やリズムを聴いた子どもたちは、「同じ鉄琴でも鳴らし方を変えると星の様子が変わるね。」や「トライアングルとトーンチャイムを交代で鳴らすと近くと遠くの星みたいだ。」等のように、より自分たちの思い浮かべた星の様子に合う音色やリズムを考えていく。さらに、自分の考えた音色やリズム等を確かめ、試奏することで、より思いに合う音色やリズム等を見つけられるだろう。そして、「四つの星がうまくつながるように、もっとつなぎ方を工夫しようよ。」「音色やリズムを、もう少し変えてみたいね。」と、グループの仲間と意欲的に対話しながら星空に合う音楽をつくっていくと考える。

#### 学習活動4

星空の様子に合う音楽を工夫できた子どもたちは「他のグループの演奏も聴いてみたい。」と感じるだろう。そこで、星空の音楽が仕上がったグループの発表を聴き、気付いたつなぎ方や音色、リズムを発表させる。その後、学習課題の達成度と振り返りを書く時間を設定し、自分の頑張りに気付いたり、課題を捉えたりできるようにする【自己評価カード】。最後に、自己評価カードに書かれた「前につくった『星の音楽』とつないで演奏してみたい。」のような新たな問題を発表させることで、次時の課題設定へとつないでいく。

### (4) 総括的評価

星空の情景を思い浮かべて、音色やリズムを試しながら、思いに合う音楽をつくっている。  
 <例>たくさんの星の中を流れる星を表そうと考えた子どもが、鉄琴を使って演奏を試し、「鉄琴をなぞる」等の記述や発言をしている。 【方法：行動，発言，ワークシート】